

説教ワポイント

聖なる方を知る

ヨハネ六・四一〜四四

箴言九・一〜一〇

「天から降って来たパン」とは、神のもとから来たという意味。これを聞いたユダヤ人たちはつぶやき始めます。「何を言っているんだ！ 彼はヨセフの子ではないか。我々は父も母も良く知っている」。イエスとは誰かの一事においてさえ、立場によって見方がこれほど異なる。これはイエスの場合だけに限りません。私たち自身についても立場によって見え方は変わります。

たとえば、谷川俊太郎の『わたし』。

「わたし おとこのこから みると おんなのこ あかちゃんから みると おねえちゃんおにいちちゃんから みると いもうと… さっちゃんから みると おともだち せんせいから みると せいと… おいし屋さんから み

ると やまぐちみちこ 五さい れんとげんでみると がいこつ…」。

あたりまえのことを言っているのですが、どこかユーモラス。でも最後の節は、少し考えさせられます。「わたし しらないひとからみると だれ？ ほこうしゃてんごく では おおぜいの ひとり」

自分は一体誰なんだろうと、詩を読みながら突然不思議に思えてくる。自分の足元が揺らぎはじめる。イエスについてなら、なおさら…。動揺や不安。どうすれば私たちはしっかりと自身を確立できるか。イエスの示唆はこれ。

「私をお遣わしになった父が引き寄せて下さなければ、誰も私のもとへ来ることはできない」。この方の愛の中に立ちなさい。そうすれば、「わたし」が見えてくる。イエスが見えて来る。いにしへの、箴言九・一〇がいうように

「聖なる方を知ることとは分別のはじめ」

(二〇一六年七月二四日礼拝より、津田記す)